

豊田高専/平成26年度年度計画		平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
		○教育理念・目標について ・平成25年8月30日開催の総務会議において、「豊田工業高等専門学校教育目標等に関する規程」の制定について審議を行った。 ・平成26年3月12日開催の教務委員会において、学校教育目標・学科教育目標・科目関連表の表現の統一及び内容変更の有無等について検討を開始した。	○教育目標等について、議論・検討を行っている。
(1)入学者の確保	①-1-1 豊田市ほか地域の校長会等に出向き本校の学校説明を行い、中学生の進学先の一つとしてアピールする。《1》	6月27日に開催された市内小中学校校長会に出向き、学校説明及び今年度の学校説明会、オープンキャンパス等の行事についてPRを行い、本校の教育システムへの理解周知を図り、進学先の一つとして選択されるようアピールをした。	○計画どおり実施できた。
	①-1-2 前年度に引き続き、教員が愛知県及びその近隣市町村まで含めた中学校を対象に訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供する。《2》	7月から9月にかけて、全教員が県内約400校及び隣接県の主な市町村の中学校を訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供し、かつ情報収集を行った。	◎計画どおり実施することができた。近隣の高専の受験者数が軒並み減少する中で、本校は前年度受験者数を上回る成果があった。
	①-1-3 新1年次学生が出身中学校を訪問するなどして学生の視点から見た本校の情報提供を行う。《3》	5月から9月にかけて、約60名の1年生が、出身中学校を訪問し、学生の視点から本校の情報提供を行いPRを行った。	○計画どおり実施できた。
	①-1-4 教員が中学校主催の進学説明会等へ積極的に参加し、情報提供を行う。《4》	県内の中学校からの依頼による中学校主催の進学説明会(8校)に出向き、本校の入試状況等について説明を行った。	◎例年の実績(4校程度)を上回り実施できた。次年度以降も継続していきたい。
	①-1-5 業者による私学対象の高校説明会などへも参加し、より多くの中学生に情報提供を行う。《5》	私学対象の高校説明会に参加し、入学志願者及び保護者に対して説明を行った。また、昨年同様、愛知県私塾協同組合主催の学校説明会(尾張及び三河地区)に参加し、私塾講師に対して本校の説明を行った。	○計画どおり説明会に参加し、本校をアピールできた。
	①-1-6 地域住民やメディア等へ積極的に本校の学校行事等について情報提供する。《6》	オープンキャンパス(10月4日、5日開催)の初日には地元新聞(中日新聞)の記者に取材に来てもらった。また、以下のメディア等により、本校の行事等について情報が発信された。(『』はタイトル) ・『大学・企業等との共働によるまちづくり』(地元ケーブルTV:4/26) ・『育て ものづくりリーダー 豊田、現場の若手と学生一緒に研修』(朝日新聞:5/29) ・『公開講座 とよた高専わくわく広場』(建築学科公開講座-地元ケーブルTV:8/4) ・『地域再生マスター講座』(地元ケーブルTV:8/5) ・『豊田市・高専 地域活性マスター講座』(日刊建設通信新聞:8/12) ・『ものづくり人材育成講座「製造技術者育成プログラム」』(地元ケーブルTV:8/8) ・『クルマづくり究めるプロジェクト』(地元ケーブルTV:8/11) ・『3日で豊田の魅力発信 PR大使2期生決まる』(新三河タイムス9/4) ・『とよた産業フェスタ2014』(地元ケーブルTV:9/29) ・『中小へ技術相談で連携』(日刊工業新聞:10/15) ・『愛知銀行と豊田高専 連携協力で協定締結』(日刊建設通信新聞:10/16) ・『愛知銀と豊田高専協定』(中日新聞:10/17) ・『愛知銀 地元高専と産学連携』(金融経済新聞:10/20) ・『豊田のD51"命"つなぐ 住民らが保存、再公開目指す』(中日新聞:10/24) ・『平成26年度リフレッシュ理科教室 不思議な力で遊ぼう』(地元ケーブルTV:11/24) ・『平成26年度 学生発⇒豊田市まちづくり提案 公開発表会』(地元ケーブルTV11/27) ・『学生発⇒豊田市まちづくり提案』(地元ケーブルTV12/8) ・『ものづくり-気通観エンジニアの養成プログラム』第5期生成果発表会・修了式』(地元ケーブルTV:1/29) ・『豊田高専 プログラム成果発表 「一気通観」技術身につけ』(中日新聞:1/29) ・『水力発電 実用性で勝負 来月アイデアコンテスト』(朝日新聞:2/22) ・『学生提案 市政策に採用』(中日新聞:3/12) ・『豊田高専 シンポに100人 英語で考え処理能力養う英文多読を普及』(新三河タイムス:3/12)	○本校所在地の自治区にお願いし各世帯へこうよう祭(文化祭)等の学校行事の案内を配付するなど積極的に広報し、参加していただいた。また、地元のケーブルテレビ等各種メディアへ積極的に情報発信することができた。
	①-2-1 中学生を対象とした各種コンテストを実施する。また、小学生やその保護者をも対象として、本校への理解と関心を深める施策を実施する。《7》	中学生を対象とした理科コンテスト(科学体験講座「ちゃれんじサイエンス」)を12月13日に実施した。また、「県内の中学校からの依頼による、中学校の総合学習の一環である上級学校訪問を受け入れ、高専の位置づけ等を説明し、進路決定の参考となるようPRを行った。	○中学生対象の理科コンテストの開催及び中学生の総合学習として、市内の中学生9名を受け入れるなど計画どおり実施した。
	②-1 愛知県及び隣接県の中学生、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を延べ10以上の会場で実施し、本校の特色、入試情報、及び「オープンキャンパス」の説明をする。《8》	昨年度に引き続き、愛知県及び隣接県の主な中学校の生徒、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を6月から11月にかけて11会場で実施(参加者数695名)した。また、今年度も文化祭の際に進学相談コーナーを設けた。	○開催時期及び開催場所の見直しをしながら、計画どおり実施できた。
	②-2 中学3年生を対象とした「体験入学」を新たに実施し、その際、女子の在校生及び卒業生による女子中学生向けのPRを行う。《9》	8月10日に「体験入学」を企画し、700名を超える中学3年生から申し込みがあったが、当日に台風による暴風警報が愛知県下に発令され中止となった。また、8月6日に対象を中学生の女子に限定した公開講座「女子中学生のための女子学生による講座」を実施した。	△体験入学実施当日の荒天により中止となったため、次年度は翌日を予備日として設定した。

豊田高専/平成26年度年度計画	平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
②-3 女子学生の受け入れ増のためには、受入れ体制の整備を行うとともに、女性教員の採用推進に努める。さらに、増員した女子寮のPRを行う。これに加え、通学生が安心して通学できるよう、通学路の安全性を確保する。《10》	機械工学科棟の改修に伴い、女子トイレの数を増やす等整備を行った。4月から一般学科に2名(内1名は理系の「物理」担当)の女性教員を採用し、女子寮の管理・運営により万全をきたすことができた。さらに1名には、寮務主事補として学寮運営を担当いただき、男性教員ではなかなか踏み込めない分野をカバーすることができた。また、学校説明会やオープンキャンパス等において、特に女子寮については、安全対策(セキュリティの強化として二重ロック、防犯カメラの設置、及び寮母の設置等)を充実させている旨の説明を行っている。また、正門付近の公道(歩道)に凹凸があるため、雨天時等には、水溜まりができ、冬期には凍結し、通学路の安全性が確保されているとは言い難いため、豊田市に当該箇所の舗装等による整備・改善を要望し、一部改善されたが、まだ危険箇所があり再度要望している。	○ 女子トイレの増設、女性教員2名の採用等概ね計画どおり実施できた。
②-4 高専女子フォーラム等の機会を利用し、女子学生志願者増に取り組む。《11》	富山高専で行われた高専女子フォーラムにおいて計8名の女子学生がポスター発表を行い、参加した企業や地元中学生に対して豊田高専女子学生の活躍について十分にアピールできた。また、帰校してからオープンキャンパスで地元の中学生に対しても豊田高専女子のアピールを行った。	○ 計画どおり実施できた。一連の女子志願者対策により、微増ながら昨年の59名から67名に女子志願者数が増加した。
③-1 入学案内、PRリーフレット、オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介誌等を作成し、中学校等へ配布するとともに、各種行事においても本校ロボット等のデモンストレーションを実施し、参加者らにアピールする等の広報活動を継続する。《12》	入学案内、PRリーフレット、オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介誌等を作成した。特にPRリーフレットについては、県内全中学校及び隣接する県外の一部中学校の3年生全員に配布しただけよう送付した。オープンキャンパスチラシについても、県内全中学校及び隣接する県外の一部中学校の3年生の全クラスに掲示しただけよう送付した。さらに、オープンキャンパスについては、新聞広告(2回掲載)及び豊田市役所内にある記者クラブへのチラシ提供をするなどし、今年度のオープンキャンパスの参加者数は979名であった。また、本校のオープンキャンパス並びに連携先の豊橋技術科学大学のオープンキャンパスで本校ロボットのデモンストレーションを実施した。	◎ 計画どおり実施できた。オープンキャンパスの参加者数も過去10年間で最高となり、志願者数の増へ繋がっている。
③-2 本校ウェブページを随時更新し、入試情報、教育活動状況及び進路状況等について掲載し、広く情報を公開する。《13》	本校ウェブページを随時更新し、入試情報、教育活動状況等について掲載し、広く情報を公開した。また、進路状況については、各学科のウェブページで公開した。	○ 計画どおり実施できた。
④ 引き続き本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるよう適切な入試を実施する。《14》	推薦選抜を引き続き導入し多様な学生の評価方法を検証しながら実施している。また、採点ミス撲滅のため、平成27年度入試に関しては、集計した点数をさらにチェックする手順を追加して実施した。平成28年度入試から導入されるマークシート方式に対応するための準備を開始した。	○ 計画どおり実施できた。
⑤-1 入学者の学力水準の維持に努めるとともに入学志願者数を維持するため、地元校長会、各中学校進路担当者、及び地元の予備校、進学塾が開催する入試説明会等を訪問し、県下の志願者動向に関する情報を収集・分析する。《15》	・6月27日に開催された市内小中学校校長会に出向き、学校説明及び今年度の学校説明会、オープンキャンパス等の行事のPRをし、本校の教育システムへの理解周知を図り、進学先の一つとして選択されるようアピールをした。 ・私学対象の高校説明会に参加し、入学志願者及び保護者に対して説明を行った。また、愛知県私塾協同組合主催の学校説明会(尾張及び三河地区)に参加し、私塾講師に対して本校の説明を行った。	○ 計画どおり実施できた。
⑤-2 機構から周知される事例を検討し、実施できるものから実施する。《16》	富山高専で行われた高専女子フォーラムにおいて計8名の女子学生がポスター発表を行い、地域の女子中学生等に高専のPRを行った。第3期中期計画に示されている女子学生の志願者確保に向けた取組の推進を開始した。具体的には、機構が作成した「平成26年度版 キラキラ高専ガールになろう」というリーフレットを学校説明会やオープンキャンパスにおいて積極的に女子中学生に配布した。また、台風によって中止になった体験入学では「高専女子講座」を開催する予定であった。中学生やその保護者に「高専」および「ものづくり教育」を理解してもらうために、機構から配布された高専紹介用のDVDを学校説明会の会場で放映した。	○ 概ね計画どおり実施できた。本年度台風で中止となった体験入学については、次年度は聖日を予備日として計画することとした。
(2)教育課程の編成等	①-1 学科の構成・改組等については、当面変更せず、モデルコアカリキュラムに基づいたカリキュラムの修正を検討する。また、引き続き、社会情勢の変化等に対応した専攻科の在り方等を不断に検討するとともに、外部有識者等の意見を積極的に取り入れる。《17》	○ 必修科目、選択必修科目等の精査をし、新カリキュラムを決定実施するなど、外部有識者の要請を取り入れ計画どおり実施できた。
①-2 教育改善推進室が実施する授業改善に関するアンケート等の資料を基に、各教員が自己評価を行い次年度以降に役立てる。《18》	学期毎に全教員が授業評価アンケートを全担当クラスで実施しているが、前期については、専攻科は7月、本科は9月に実施し、後期については、専攻科は1月、本科は2月に実施した。アンケート結果については、教育改善推進室において集計を行い、前期の集計結果については、10月に、後期においては3月にデスクネットで公開するとともに各教員に配付した。次年度以降に役立つよう、その後、教員から、対応策等を提出してもらい、教育改善推進室において取りまとめの上、各学科に配付した。	○ 学生からのアンケート結果及び学生からの要望等を教員に提示し、学生に回答をするなどフィードバックしながら授業改善を実施している。

豊田高専/平成26年度年度計画	平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
①-3 専攻科の充実を推進するため、「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを活用して企業技術者と交流できる講座等に積極的に専攻科生を参加させるとともに、社会が求める先端技術に対応できる技術者を輩出する。《19》	豊田市・豊田商工会議所・豊田高専の3者連携機関である「とよたイノベーションセンター」の事業の一つとして「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを実施し、本校専攻科生と企業技術者との混成チームによるプロジェクト研究課題に取り組み、専攻科生18名が修了した。	○ 実際の会社で現場を熟知している企業技術者と共同でプログラムに参加することで、より実践的な技術者の養成ができた。
②-1 機構が実施する学習到達度試験を第3学年全員に受験させ、学力の定着度を把握する。《20》	昨年度の到達度試験の結果を基に、全国平均との比較、平均値の経年変化、学科別、領域別正答率を教務委員会において分析した。その後、全教員間で把握し、授業や補習で改善するよう努めた。	○ 計画どおり実施できた。
②-2 年2回TOEIC-IP団体受験を学内で実施する。10月上旬に実施する試験では、本科第3学年及び専攻科1年次の学生に対し、全員受験を義務付ける。更に、英文多読・多聴を全学科で実施し、英語力の向上を目指す。《21》	年2回TOEIC-IP団体試験を学内で実施しており、5月6日に行ったIP団体試験は83名の学生が受験した。10月2日に実施したIP団体試験では、本科第3学年及び専攻科1年次の学生に対し、全員受験を義務付けており、310名の学生が受験した。更に、全学科で英文多読・多聴を実施し、英語力の向上を目指している。	◎ TOEICの点数が着実にアップしているなど計画どおり英語力の向上に繋がっている。
②-3 TOEIC, 実用英語技能検定, 工業英語能力検定等の資格取得を奨励し, 実践力の強化を引き続き図る。また, TOEIC, 実用数学技能検定については, 学内団体受験を引き続き, 年2回実施する。《22》	TOEIC-IP団体試験については、5月6日に1回目の試験(83名受験)を、10月2日に2回目の試験(310名受験)を実施した。実用数学技能検定の学内団体受験については、6月21日に1回目の試験(92名受験)を行った。また、12月6日に2回目の試験(162名受験)を実施した。	○ 計画どおり実施できた。
③-1-1 教育改善推進室が中心となって、平成21年度から実施し蓄積された、卒業生、企業、大学、本科5年生(卒業時)、及び専攻科2年生(修了時)を対象に、本校の教育内容、学生生活、及び今後の教育の方向性についてたずねたアンケート結果を集計分析する。《23》	教育改善推進室において、室員を中心に、卒業生、企業、大学、本科5年生(卒業時)、及び専攻科2年生(修了時)を対象に、本校の教育内容、学生生活、及び今後の教育の方向性について調査したアンケート結果の集計・分析を行った。	○ 計画どおり実施できた。
③-2-1 結果を全教員へ公開するとともに教員への改善提案を行う。《24》	総務会議で報告後、デスクネットにより全教員へ公開した。	○ 計画どおり実施できた。
③-2-2 教員と学生との対話会を実施し、得られた情報等を全教員へフィードバックする。《25》	教育改善推進室において12月に教員と学生の対話会を行い、その概要を教育改善推進室会議で報告後、デスクネットにより全教員へ公開した。	○ 計画どおり実施できた。
④ 全国高等専門学校体育大会, 同ロボットコンテスト, 同プログラミングコンテスト, 同デザインコンペティション, 同プレゼンテーションコンテストのみでなく, 高体連の大会及び文化系クラブの外部大会等に学生が積極的に参加できる体制作りを行う。《26》	14名の外部コーチの委嘱による日常での技術指導のみならず、6名の課外活動指導員を非常勤雇用し、日常の練習指導だけでなく、校外での休日の練習試合及び各種大会等への引率指導も可能とし、様々な大会に参加しやすい体制づくりを実施した。また、教育後援会からの活動旅費補助対象が運動部のみであったものを、文科系クラブの外部大会参加旅費についても新たに補助の対象とした。	◎ 教員の勤務軽減を図りながらも、以前より活発に休日等の練習試合等に参加できるように改善され、課外活動指導員等により実施された分、教員が教育研究に時間を充てることができるなど教育・研究成果(正課活動)も確認できた。また、文化系クラブにおいても参加旅費を補助し、参加しやすい体制作りができた。
⑤ 学生にボランティア活動や自動車関連ものづくり講座, 自然体験活動等の様々な体験活動へ積極的に参加できるよう情報発信し, 特に夏季休業等長期休暇を有効に利用し参加するよう引き続き, 指導する。《27》	豊田市, NPO団体が募集している自然保護活動やその他のさまざまなボランティアに積極的に参加するように学生に呼びかけている。今回、豊田市が主催する「クルマづくりプロジェクト」を紹介した結果、3名の学生が参加した。また、地域との交流事業や清掃活動に学生会および寮生会が主体となって随時参加した。	◎ 新たに学生が地域のコミュニティ活動へも積極的にボランティア参加するなど実施できた。
(3) 優れた教員の確保		
① 科学技術振興機構の研究人材ポータルサイトに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に教員公募に関する周知を行い、公募制を積極的に導入し、引き続き全国から多様な背景を持つ有能な人材の確保に努める。《28》	教員公募(4件)にあたっては、科学技術振興機構の研究人材ポータルサイトに登録するとともに、高専機構本部及び本校のウェブページへの掲載を行った。また、学科によっては、全国から多様な背景を持つ有能な人材を確保するため、全国の高等専門学校及び同分野の大学等に周知した。	○ 計画どおり実施できた。
② 「高専・両技科大間教員交流制度」の派遣者推薦に向けて、高専間との調整を行い、受入要望も積極的に行う。また、大学、企業等との人事交流制度等について引き続き検討を行う。《29》	「高専・両技科大間教員交流制度」により、1名の派遣、2名の受入を行った。次年度については、1名の派遣、3名の受入を行う予定である。	○ 計画どおり実施できた。
③ 専門科目担当教員(一般科目の理系教員を含む。)は博士の学位又は技術士等の資格を有することを採用要件とし、また、一般科目担当教員(文系)は修士以上の学位を有していることを採用要件とする。《30》	専門科目担当教員(一般科目の理系教員を含む。)は博士の学位又は技術士等の資格を有することを採用要件とし、また、一般科目担当教員(文系)は修士以上の学位を有していることを採用要件として公募を行った。	○ 計画どおり実施できた。
④-1 女性教員採用について、公募時に、能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である旨を公募文に記載する。《31》	女性教員採用について、公募時に、能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である旨を公募文に記載した。	○ 計画どおり実施できた。
④-2 男女共同参画推進室が中心となって、女性教員の業務軽減、非常勤講師の雇用等、必要な制度や支援策について検討を行い、女性教員が働きやすい職場環境の整備に努める。《32》	今年度より男女共同参画室を設置し女性教員が働きやすい職場環境の整備等について検討を行った。また、産学連携室を昼休み時間帯に女性職員に開放し、休憩室とした。	○ 概ね計画どおり実施できた。
④-3 女性教員採用に伴う特別経費配分制度等を積極的に活用し女性教員採用に取り組む。《33》	平成26年度4月1日付けで2名の女性教員を採用した。	○ 計画どおり実施できた。

豊田高専/平成26年度年度計画	平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
⑤-1 教員の能力向上を図るため、研修会に積極的に参加させる。また、引き続き新任教員に対して年度早々に研修を実施する。《34》	教員については、高専機構主催の新任教員研修会及び英語授業講義力強化プログラムに参加させた。事務職員や技術職員については、能力の向上を目指した国立大学法人、人事院などが主催する研修会に参加させた。新任教職員に対しては、4月10日に研修を行い、その他教職員の必要に応じて業務に関係する各種研修を行った。また、機構主催の平成26年度教員研修(クラス経営・生活指導研修)や、9月19日に開催された東海・北陸地区国立高等専門学校教員研究集会に教員を参加させた。さらに、10月以降に開催された管理職研修、アクティブラーニング研修、CBT問題作成研修、Blackboard講習会などにも教員を参加させた。また、国立大学改革強化推進補助事業による「平成26年度教員グローバル人材育成カプログラム」に教員1名を派遣し、①ニューヨーク市立大学クイーンズ校(米国:6月30日～12月24日)、②ペナン校、マレーシア科学大学等(マレーシア:1月10日～3月9日)での研修を終え、英語によるカリキュラム及び教育研究活動を通して、英語による指導法を修得し、教育研究能力のスキルアップを図った。	◎ 国立大学改革強化推進補助事業に派遣するなど計画を上回り実施できた。
⑤-2 教育改善推進室において本校の特徴を踏まえた教材選択や教育方法の開発について検討するとともに、教授法について情報交換を行う。《35》	教育改善推進室で情報収集を行ったほか、FDセミナー(学生との対話会の意見を踏まえて)を開催し、教授法やクラス運営に関する討議を行った。	○ 計画どおり実施できた。
⑤-3 FDセミナー等を開催し、更なる教育の質の向上を図る。《36》	12月にFDセミナーを開催し、翌1月にはFD小セミナー(多様な個性を持った学生の指導について)を行った。	○ 計画どおり実施できた。
⑥ 本校教員顕彰規則に基づく「教員顕彰委員会」において、教育活動、研究活動、学生指導、社会貢献及び学校運営に顕著な功績が認められる教員を選考し表彰する。《37》	10月15日に「教員顕彰委員会」を実施し、本校教員顕彰に係る被顕彰者(3名)及び国立高等専門学校教員顕彰候補者(2名)を選考し、本校教員顕彰に係る被顕彰者については、2月に表彰式を行った。	○ 計画どおり実施できた。
⑦-1 全国高専教育フォーラムや他大学等への研究・研修の参加を引き続き促進する。《38》	8月26日～28日に開催された全国高専教育フォーラムに校長を始め、5名の教員が参加し、ワークショップへの参加・教育研究活動の発表を行った。	○ 概ね計画どおり実施できた。
⑦-2 教員の国際学会への参加を促進する。《39》	教員の国際学会等への参加をサポートし、延べ21名の教員が15カ国で開催された国際学会・会議等に出席した。	○ 計画どおり実施できた。
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム	①-1 教育改善推進室において、本校の特徴を踏まえた教材や教育方法の開発を推進するための計画・検討を行う。《40》	○ 計画どおり実施できた。
①-2 教育改善推進室主催によるFDセミナー、シンポジウム等を開催し、教授法の情報交換を行い、教育の質の向上を図る。《41》	教育改善推進室においてFDセミナー及びFD小セミナーを実施し、教授法等について班別討議を行いその結果を全体会で発表し全教員へ還元している。	○ 計画どおり実施できた。
②-1 継続認定を受けたJABEEプログラムに基づき、教育の質の向上に努めるとともに、課題等については外部評価対応委員会で対応する。《42》	JABEEプログラムに基づき、教育の質の向上に努めるとともに、来年度のプログラム受審に向けて、JABEE受審対応タスクグループ会議を実施し(9月、3月)、課題等を検討し、自己点検書の作成を進めた。	○ 計画どおり実施できた。
②-2 実用数学技能検定、デジタル技術検定、CAD利用技術者、電気主任技術者、測量士、宅地建物取引主任者等の資格取得を奨励し、実践力の強化を引き続き図る。《43》	実用数学技能検定の学内団体受験については、6月21日に1回目の試験(92名受験)を、12月6日に2回目の試験(162名受験)を実施し、準1級4名、2級25名及び準2級81名の合格者から外部単位申請があった。また、デジタル技術検定の学内団体受験を11月23日に実施(24名受験)し、内3級合格者16名、2級合格者4名から外部単位申請があった。さらに、CAD利用技術者試験についても、学内受験を行い、28名の学生が受験し、内2級合格者10名から外部単位申請があった。	○ 計画どおり実施できた。
③ 学校の枠を超えた学生の交流活動を促進するため、全国の高専との学生会交流行事、寮生会の交流行事に積極的に参加する。また、東海地区留学生交流会に参加し、他高専の外国人留学生との交流を図る。《44》	高松市で開催された全国高専交流会に学生会の役員4名が参加し、3日間にわたって意見交換を行った。参加者は交流内容の報告書を作成し、本校の学生会運営に役立てた。また、9月6日～7日に阿南高専、新居浜高専、福井高専の寮生と四高専合同交流会を行い、交流を深めた。また、12月20日～22日に実施を予定していた東海地区留学生交流会については、宿泊施設のある地域が雪による悪天候のため、やむを得ず中止となった。	○ 概ね計画どおり実施できた。
④-1 教育改善推進室において、前期及び後期に各2週間の教員向け公開授業期間を設け、模範となる授業実践の参考とする。《45》	前期は6月、後期は11月にそれぞれ2週間の教員向け公開授業期間を設けて実施した。各教員には参観授業についての報告書提出を求め、授業担当者へはそれらの報告書のフィードバックを行った。	○ 計画どおり実施できた。
④-2 課題及び試験答案を全教科保存し、常時閲覧できる体制とする。《46》	課題及び試験答案については、教育改善推進室で全教科保存している。なお、課題等については、教育改善推進室の教職員に連絡の上、常時閲覧できるような体制とした。	○ 計画どおり実施できた。

豊田高専/平成26年度年度計画	平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
④-3 企業技術者と本校専攻科生が受講する「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムにおいて、エンジニアリングデザイン能力養成の充実を図る。《47》	製造工程の設計から設備製作、調整・運転に至るまでを一貫して体験することで、ものづくり全体を俯瞰できる技術者の養成を目指す「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを実施し、学生と企業技術者との混成チームによるプロジェクト課題に取り組みさせることで、エンジニアリングデザイン能力の育成を図った。今年度(第5期生)は、企業生9名、専攻科学生19名の計28名が受講し、4班のプロジェクトチームに分かれて、独創的な自動組立設備の開発に取り組んだ。その結果、全てのチームが課題を達成し、企業生9名、専攻科学生18名の計27名がプログラムを修了した。	○ 計画どおり実施できた。
⑤ 機関別認証評価を受審する。《48》	機関別認証評価を受審した。6月末に大学評価・学位授与機構に提出した自己評価書等に基づき、11月18日、19日に訪問調査が行われ、その結果、本校は高等専門学校設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている旨の評価を受けた。	◎ 機関別認証評価を計画どおり受審し認定された。また、選択的認証評価についても受審し高い評価を受けた。
⑥-1 第4学年で実施されている「校外実習」をインターンシップの一環と位置づけ、より多くの学生が夏季休業期間中に就業体験をすることができるよう昨年に引き続き実施方法の改善及び近隣企業への協力要請に努める。《49》	本科4年生を中心にインターンシップに約190名が参加し、就業体験した。インターンシップ期間が主に8月の夏季休業中のため、参加できる企業に制約があり、学生が希望する企業への就業体験が難しくなっていることから、来年度から夏季休業期間を大学と同じ9月に移動することとした。	◎ 単位認定に該当しないため、集計に上がらない公募型等の参加は年々増加している。また、専攻科生の参加も公募型を中心に増加傾向にある。さらに、次年度は夏季休業の時期を大学等と同じ8月～9月にすることでさらに参加しやすい環境となる。
⑥-2 専攻科については、インターンシップの参加率を高めるよう引き続き努力する。《50》	専攻科では1ヶ月程度以上の長期インターンシップ先の開拓が進まないため、2週間のインターンシップの単位化を行った。また、海外インターンシップへの参加を推進し3名が海外の企業、大学におけるインターンシップに参加した。	○ 特に海外インターンシップでは、参加費等の負担増の問題もあり大幅な参加者の増は見込めない中で、着実に成果を上げている。
⑦-1 「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムにより、専攻科生に対し地域の企業及び愛知県産業技術研究所等の協力を得て、産学官一体となる教育プログラムを提供する。《51》	豊田市・豊田商工会議所・豊田高専の3者連携機関である「とよたイノベーションセンター」の事業の一つとして「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラム第5期を実施した。実施に当たっては、豊田市、豊田商工会議所、地域企業等の協力を得ている。6月には、デンソー技研センターの協力の下、同センターにて学外研修を実施した。	○ 計画どおり実施できた。
⑦-2 引き続き豊田市や企業と連携し企業人材を活用するなどして、人材育成カリキュラムの充実を図る。《52》	企業技術者OBを特命准教授として雇用し、「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムのスタッフとして、企画・運営並びに実習指導を行った。	○ 計画どおり実施できた。
⑧ 豊橋技術科学大学との連携協定に基づき、教育連携等の実施について検討し、推進する。具体的には、教員交流、出前授業(先端技術特論)の継続、Web授業の充実、両校のオープンキャンパスに相互参加などを実施する。《53》	豊橋技術科学大学との連携協定に基づき、教員交流の実施(派遣1名、受入れ1名)、出前授業の実施(先端技術特論、9回)、両校のオープンキャンパスの相互参加及び豊橋技術科学大学の若手教員による本校の訪問(11/14:授業見学、卒業研究訪問、施設見学、本校教職員との意見交換会等)を実施した。	○ 計画どおり実施できた。
⑨ 共同教育について長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学を始めとし、高専も含め多数の学校との、「eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定」により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れ、引き続き学生へ提供する。《54》	eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れた結果、次のとおりであった。 【前学期受講生数】長岡技術科学大学:32名、豊橋技術科学大学:39名、【後学期受講生数】長岡技術科学大学:19名、九州工業大学:5名 外部の関連科目を学ぶ機会が増え、ICT教育による学習習慣が定着するのに寄与した。8月5日と1月6日に開催されたeラーニング高等教育連携(eHELP)全体会議に本校教員を出席させ、情報収集等を行った。	○ 計画どおり実施できた。
(5) 学生支援・生活支援等 ①-1 機構等が開催する教職員を対象とした学生のメンタルヘルスに関する講習会に積極的に参加するとともに、本校においても学生・教職員を対象としたいじめ防止対策をはじめとする学生指導等に関する講習会を実施する。 また、平成24年度に拡充した学生相談室を中心に学生のメンタルヘルスについての取組を強化する。《55》	「全国大学保健管理協会東海北陸地方部会研究会」「東海・北陸学生支援連絡会議」「高専メンタルヘルス研究会」等に、教職員が参加し、情報交換を行った。また「学校いじめ防止基本方針」を策定し、本校HPに公開するとともに、「いじめに関するアンケート」を作成し、実施した。 第1学年には学生相談室オリエンテーション、第2学年には「人間関係」の体験型講演会、第3学年には「こころを大切に」をテーマにしたカウンセラーによる各クラス毎の講演会及び性格テストを実施し、その結果を解説した。さらに、全学生を対象に「こころと体の健康調査」、1年生と3年生を対象に「UPI精神健康調査」を実施したところ、カウンセリングが必要となった学生が非常に多く、カウンセラー4名、精神科医1名の体制で緊急度が高い学生から順次呼び出し、カウンセリングを実施した。また、教職員にはメンタルヘルスをテーマに、臨床心理士による「課題が出せない、レポートが書けない学生への対応」をテーマとして、講演会を実施した。	◎ いじめ防止及び体罰防止等を含め学生相談体制の増強(カウンセラーの増及び精神科医の協力体制の構築)及び[こころと体の健康調査]等計画どおり実施できた。
①-2 1年次、2年次、3年次において、学年に応じた目的達成のため合宿研修を引き続き実施し、高専生としての基本的な心構え、知識、体力及び生活習慣を身につけさせるとともに、学生、教職員の交流を図る。更に、寄宿舎においては高学年生が新入生を指導、援助又は身近な相談者となり寄宿舎の運営を学生により実施することができるよう、寮指導学生研修会を実施する。《56》	第1学年合宿研修(1泊2日)を実施し、高専生としての基本的な心構え、知識、生活習慣を身につけさせるとともに、学生と教職員の交流を図った。第2学年スキー教育(2泊3日)を志賀高原で実施し自然とふれあう中で気力とスキー技術の向上を図った。第3学年交通安全教育(1泊2日)の合宿研修を実施し、交通安全の意識向上を図った。 また、寮指導学生研修会を2回(平成26年3月29日～3月31日、平成26年9月27日～9月29日)開催し、学寮の自治的運営のために寮指導学生として求められるリーダーシップの養成、及びそれぞれの役割を確認する場とした。	○ 計画どおり実施できた。

豊田高専/平成26年度年度計画	平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
①-3 600名を越える寮生に対応するため宿日直体制を強化し、寮生の安全と安心を確保する。《57》	前年度に見直し、増強を図った当直体制(平日の宿直3名体制:2名教員,1名学生寮指導員,休日の日直2名体制:1名教員,1名学生寮指導員)を維持するため、学生寮指導員(非常勤職員)を雇用した。	○ 計画どおり実施できた。
②-1 教育研究に資する図書を厳選して整備するとともに、空調設備、視聴覚機器、マルチメディア機器を引き続き整備し、外部に開かれた図書館としてその役割を拡充し図書館の利用を促進する。《58》	ブックハンティングの実施と各学科からの要望を取り入れた専門書の購入により図書の充実を図った。また、英文多読・多聴教材の充実にも努め、学外の一般利用者にも、より利用しやすい環境作りに努めた結果、年間4万5千件の利用者のうち、学外者の利用が5千件に上った。さらに、女性教育に関する図書の充実にも努めた。	○ 計画どおり実施できた。
②-2 寄宿舎新営による入寮定員拡充後の次の段階として、既設寮の改修整備、浴室増設などによる寄宿舎環境の質的向上について検討を進める。《59》	学寮の共有スペース(浴室、集会室、学習スペースなど)の整備については、さらなる改善策について、検討を行った。そのうち学習スペースについては、寮生会と共に、学習室の什器及びPCの更新等について検討を行い、更新及び増設した。	○ 計画どおり実施できた。
③-1 学生や保護者に各種奨学金制度の情報を積極的に周知する。その際、掲示、プリント配付、指導教員からの周知だけでなく、該当者には個別に情報発信し、積極的に周知するとともに、必要な説明会を随時実施する。《60》	入学時に学生及び保護者へ日本学生支援機構等の奨学金制度について、プリント配付及び口頭説明により案内を行った。また、在校生には掲示及び指導教員から募集案内を告知し、希望者については、随時、学生課窓口で個別に説明し対応した。	○ 計画どおり実施できた。
③-2 創立50周年記念行事の一つとして設けた学生支援基金の活用を進める。《61》	創立50周年記念行事の一つとして設けた学生支援基金の活用について検討を開始し、学生へ直接還元される使途を計画している。	○ 概ね計画どおり実施できた。
④-1-1 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を見直し、進路検索システム利用の促進を図る。進路決定に向けてのキャリア教育支援プログラム(各種講座や面接指導)を有効に活用しながら学生の就職及び進学に関して進路指導を丁寧に行う。《62》	進路検索システムについては、年間650件以上のデータを追加し、就職活動をする学生の有益なデータベースとなっている。特に平成27年度は就職採用活動の後ろ倒しの効果もあり、じっくり企業を検討するには、非常に有効なシステムであると期待している。	○ 計画どおり実施できた。
④-2-1 キャリア教育支援室を中心に、学習意欲の向上・学生の進路選択・決定のための支援活動を組織的に行い、1年生から学年進行に応じた必要な行事、講演及び体験を計画的に実施する。同窓会との連携による模擬就職面接試験など実践的な就職活動の支援を行う。《63》	キャリア教育支援室においては1年から5年までの各学年において、目標を定めて、段階的、組織的にキャリアを身につけさせる活動を行っている。1学年での合宿研修、2学年での人間力講演会、3学年での就職先調査発表会を行い、4学年のビジネスマナー講演会、履歴書作成、模擬面接の各講演会の他、年度末には、模擬面接講座を行った。	○ 計画どおり実施できた。
④-2-2 女子学生に関しては高専女子フォーラムへの参加を通じて高専での学習・研究を始め、就職への心構えなど自己研鑽を積む機会を与える。《64》	富山高専で行われた高専女子フォーラムにおいて計8名の女子学生がポスター発表を行い、また、本校のオープンキャンパスでも中学生に対し豊田高専女子のアピールを行い、中学生との交流が図れた。また、女子フォーラムでは、多数の企業の人事担当者との交流ができ、女子学生各自のキャリア形成の一助となった。	○ 計画どおり実施できた。
(6)教育環境の整備・活用	①-1 施設環境整備委員会において、点検評価体制、施設・設備の基本計画、効果的・効率的な使用などの検討を進め、学生間及び学生と教職員とのコミュニケーション向上の場を設けるとともに研究用共通スペースの確保等、教職員及び学生にとってより快適に学習・研究などを推進できるように環境整備を図るため、年次計画を立て計画的に進める。《65》	◎ コミュニケーションの向上及び学生の憩いの場として学生談話室を設置した。また、将来構想を見据えた「キャンパスマスタープラン2014」を完成することができた。
①-2 施設環境整備委員会において、校舎・実験施設等の教育施設の老朽度・狭隘化やパリアフリーへの対応状況、実験器材・棚等転倒防止策等についての点検評価作業などの検討を行い、年次計画を立てて教育環境を改善する。《66》	安全衛生委員会が毎月実施している安全パトロールによって、学内の校舎・実験施設等の教育施設の老朽度・狭隘化やパリアフリーへの対応状況、実験器材・棚等転倒防止策等についての点検評価作業を行った。この安全点検等により必要な対応について予算処置が伴うものは、施設環境整備委員会に図られ、緊急性を踏まえながら、優先順位を決定し年次計画を策定しながら順次教育環境を改善した。	○ 計画どおり実施できた。
①-3 安全で快適な教育環境の充実のため、照明のLED化、空調設備の集中管理など省エネ対策をさらに推進する。《67》	夏季に実施された営繕要求工事によって、情報工学科棟の教員室や実験室などの空調機を個別方式の電気から集中管理方式のガスに変更し、運転期間や設定温度などを管理することで省エネ対策を推進した。	○ 計画どおり実施できた。
①-4 環境に配慮し、温暖化効果ガスの削減を図る。《68》	8月と12月に施設環境整備委員長と総務課課長補佐、施設係員などが学内の全ての部屋と施設を巡回し、適切な空調機の使用状況であるかを確認し、温度設定等が不適正な場合には改善するように指導した。	○ 計画どおり実施できた。

豊田高専/平成26年度年度計画	平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価	
②-1 安全衛生に関するマニュアルを配布するとともに、本校独自のマニュアル作成に取り組む。また、各教職員が3年毎に再受講できるよう、年1回は教職員に救急蘇生法等に関する講習会を実施する。《69》	安全衛生に関する本校独自のマニュアルの改訂作業を行った。また、全教職員が3年毎に再受講できるよう、本年も8月に対象の教職員に救急蘇生法等に関する講習会を実施した。	○	計画どおり実施できた。
②-2 新任教員研修時にAEDの取扱いを修得させるためDVDによる講習を行う。《70》	新任教員研修時にAEDの取扱いを修得させるためDVDによる講習を行った。	○	計画どおり実施できた。
③ 男女共同参画推進室及びキャリア教育支援室が協力して、教職員あるいは学生を対象として、社会で活躍する女性講師を招へいた講演会を開くなど具体的な活動を行う。《71》	12月17日「企業へのエントリー講座」(対象:本科第4学年,専攻科第1学年)終了後,同講座担当の女性講師による「就職直前女子セミナー」を開催した。茶話会形式の寛いだ雰囲気の中,参加女子学生(19名:第4学年17名,専攻科第1学年2名)は,女性講師ならではの不安や悩みを打ち明けていたこともあり,学生,教職員から高い評価であった。	◎	セミナー等開催し高い評価を得,当初の計画を上回る成果があった。
2 研究や社会連携に関する事項 ①-1 積極的な外部資金獲得を目指し,科学研究費助成事業応募のためのガイダンスを開催する。また,各種研究助成金の情報提供を積極的に行う。研究内容を精査の上,校長裁量経費(教育研究プロジェクト経費)により研究費を重点配分し,教育研究プロジェクトに採択された研究の成果について,報告会を開催する。《72》	科学研究費助成事業応募のためのガイダンスとして高専機構主催のテレビ会議システムを利用した講習会を教員に受講させた。(2日間:57名) その結果,申請件数が6件増加した。 校長裁量経費(教育研究プロジェクト経費)により研究費(23件)を重点配分し,昨年度教育研究プロジェクトに採択された研究の成果について,報告会を開催した。	○	計画どおり実施できた。
①-2 新任教員に対して研究の開始を支援する特別な予算的措置を行う。《73》	高専設備充実費(新任教員枠)を配分し,これからの教育研究活動に向けた環境整備が図られた。	○	計画どおり実施できた。
②-1 技術シーズ集を活用すると同時に,とよたイノベーションセンター事業の一つである技術相談事業などを利用して共同研究や受託研究の受入れを促進する。また,研究成果の活用を図るため,教職員等を対象とした知的財産保護・活用のための講演会・講習会を開催する。また,特許出願を支援する。《74》	受託研究・共同研究の受入を促進し,また,各種研究助成金の情報提供を行い,積極的な外部資金の獲得に努めた。 受託研究:0件,共同研究:15件,奨学寄附金:19件 受託研究が0件である理由は,受託研究に比べ,共同研究の方が,企業等と本校がより緊密に協力して研究を行うことができる利点があるため,本校として共同研究を推進していることによる。 なお,今年度の特許出願件数は0件である。	○	概ね計画どおり実施できた。
②-2 テクノコンプレックスを中核機関とし,高度技術教育,教員研究及び地域の企業との共同研究を推進する。本校の教育研究資源を活用し,企業技術者と本校専攻科生が受講する「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを本校が加わるとよたイノベーションセンターの事業として継続して実施する。《75》	テクノコンプレックスを中核機関とし,高度技術教育,教員研究及び地域の企業との共同研究を推進した。共同研究:15件。 「とよたイノベーションセンター」の事業の一つとして「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを実施した(専攻科生18名と企業生9名が修了)。	○	計画どおり実施できた。
②-3 豊田市,豊田商工会議所と本校との三者連携による「とよたイノベーションセンターの運営に関する協定」を更に実質的なものとし,人材育成,技術相談,新技術開発などを進め地域技術者の育成に貢献する。《76》	豊田市,豊田商工会議所,豊田高専の三者連携機関である「とよたイノベーションセンター」を中心に,人材育成,技術相談,新技術開発支援を進めた。 ■人材育成…[1]製造技術者育成プログラム4講座コース実施した(72名参加),[2]ものづくり中級講座「プレス技術」を新規に開講(148名参加) ■技術相談・経営相談等…100社(市内68社・市外32社),相談件数 312件(平成27年2月末現在) ■新技術開発・創出支援…イノベーションセミナーの開催(受講者数は,第1回が25名,第2回が25名,第3回が31名),「リーダー養成講座」を開催(2日の講座で受講者25名),3Dプリンター出力サービス 28件(平成27年2月末現在)	◎	計画を上回り実施できた。
②-4 豊田信用金庫,豊田市との包括連携協定などを活用し,地域産業との連携を強化する。《77》	豊田市,豊田商工会議所,豊田高専の三者連携機関である「とよたイノベーションセンター」を中心に,人材育成,技術相談,新技術開発支援を進めた。 豊田市との包括協定に基づき,文部科学省「地(知)の拠点整備事業」への申請を行ったが採択されなかった。豊田信用金庫等の支援もあり,7月~8月に地域活性マイスター養成講座を実施した。3月に「平成26年度小水力発電アイデアコンテスト」を豊田市等と共同で開催した。 10月中旬に愛知銀行との連携協定を締結した。早速,11月に開催された「愛知銀行商談会」に参加し,本校のPRパネルを出展した。今後,広く愛知県内の企業等との連携強化を検討している。 また,3月25日に地元企業の小島プレス工業株式会社と包括連携協定を締結し,協同教育等を推進することとした。	◎	前年度を上回る相談件数があるなど,計画を上回り実施できた。
③ 研究成果の円滑な知的資産化を促進するとともに,平成25年度に構築された知的財産管理システムの運用に従い,知的財産を有効かつ効率的に活用する。《78》	担当教職員を知財講習会(7月)及び機構本部の知的財産講習会(9月)に派遣した。本校において,12月に中部経済産業局主催(本校共催)により,対象者を本校専攻科生及び企業の若手社員等とした「社会人として必要な基礎力育成講座(知的財産マインドを向上させる講座)」を実施した(受講者52名)。	○	計画どおり実施できた。

豊田高専/平成26年度年度計画	平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
④ 地域共同テクノセンター及びとよたイノベーションセンターを活用し、本校のもつ技術シーズを地域社会に広く紹介するとともに、教員の研究分野や共同研究・受託研究等の成果など情報の広報活動に努める。《79》	1月初旬に教員の技術シーズ集を発行した。また、各種の技術展示会への出展を通して、技術シーズの紹介を積極的に行った(「全国高専テクノフォーラム」(札幌・8月)、「TECH Biz EXPO 2014」(名古屋・10月)、「メッセ ナゴヤ 2014」(名古屋・11月)、「エコプロダクツ 2014」(東京・12月)、「とよたビジネスフェア」(豊田・1月))。	○ 計画どおり実施できた。
⑤-1-1 小中学校向けの出前授業や理科教室を通じて、地域の小中学校に積極的に働きかけるとともに、地域とのネットワークを構築する事業を展開しながら、理科教育の支援を行う。地域だけでなく、全国の小学生も含めて、参加者を募集し、ものづくりの体験と科学への理解の増進を図るため、理科工作教室「とよた高専おもしろ科学教室」を開催する。《80》	小中学校向けの出前授業や理科教室を通じて、地域の小中学校に積極的に働きかけた。地域とのネットワークを構築する事業を展開しながら、理科教育の支援を行っている。地域の小学生は勿論、全国から参加者を集め、ものづくりを体験させ、科学への理解の増進を図るため、「とよた高専おもしろ科学教室」(LEDに関する講演と理科工作教室)を67名の参加で12月に開催した。公開講座 10件 出前授業 24件 地域貢献事業 7件	○ 計画どおり実施できた。
⑤-1-2 中学生を対象として理数コンテストを実施し、物理や数学への関心を高める。《81》	12月に中学生を対象とした理数コンテスト(チャレンジサイエンス)を6名の参加を得て開催した。	○ 計画どおり実施できた。
⑤-2-1 公開講座参加者に対する満足度のアンケート調査を行い、参加者の7割以上から評価されるよう内容の充実を図る。また、従来の中学生や一般市民に加えて小学生とその保護者を対象に加え、本校学生の協力を得て学生と参加者が交流できる場を設けることにより、本校の魅力を伝えてもらう。《82》	公開講座参加者に対する満足度のアンケート調査を行い、参加者の7割以上から評価された。7月に小中学生向けの公開講座を開催した。また、12月には、小学5年生～中学生を対象にした「とよた高専おもしろ科学教室」を開催した。	○ 計画どおり実施できた。
⑥-1 同窓会組織等と連携し、卒業生の動向を把握し、卒業生による在校生のための講演会、講習会及び交流会を開催するなど、引き続き、卒業生とのネットワークの活用を図る。《83》	同窓会組織と連携し、15名の卒業生による同窓生による5学科の在校生を対象とした講演会を実施した。(11月26日) また、昨年度同様、3月に、同窓会による新第5学年を対象とした模擬面接講座を実施した。	○ 計画どおり実施できた。
⑥-2 地域貢献として年5回、駅から本校周辺区域の清掃を環境美化活動の一環として実施する。《84》	環境美化活動の一環として、5月、6月、10月、11月及び平成27年1月に、駅から本校周辺区域の清掃を行った。	○ 計画どおり実施できた。
3 国際交流等に関する事項		
①-1 他高専や大学と連携して学術交流状況の調査や海外視察を行うなど、海外学術交流や海外インターンシップに関する調査・検討を引き続き行う。また、本校の視察・見学を希望する海外の学生、技術者等を積極的に受け入れる。《85》	豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学及び高専機構が連携し実践している「教員グローバル人材育成力強化プログラム」に本校教員1名が1年間の予定で参加した。同教員については、豊橋技術科学大学での3か月の研修とニューヨーク市立大学クイーンズ校での6か月間の英語研修を修了した。	○ 計画どおり実施できた。
①-2 国際交流協定の締結に向けて、教員の海外の教育機関との学術交流を進める。《86》	国際交流委員会において、協定の締結について情報収集を行っている。	△ 情報収集に留まり、やや計画どおりではなかった。
①-3 機構及び東海地区高専で連携し企画する海外インターンシップに積極的に参加する。《87》	高専機構による海外インターンシップへの参加(タイ:1名)があり、今年度も昨年度の参加実績を学内に周知した結果、1名の学生が希望し、タイでのインターンシップに参加した。	○ 計画どおり実施できた。
② 国際交流委員会を中心に、外国人留学生に対する支援及び学生の海外留学(海外奨学金情報を含む。)の支援を引き続き進める。《88》	4月に留学生歓迎会を実施し、チューターや寮生会・学生会との交流を図った。今年度は留学生懇談会を6回実施し、主に外国人留学生の寄宿舍での生活面の支援を行った。また、外国人留学生とチューター及び教職員の交流のため、本校体育館にてバドミントン交流を7回実施した。日本人学生の海外留学支援として、「AFS、YFUを利用した10か月の長期海外派遣」を積極的に支援し36名の留学を許可した。豊田市役所国際課主催の、平成27年3月英国ダービーシャー市への高校生派遣(2週間)として本校からは1名を選出した。熊本高専主催のシンガポールでの「英語キャンプ」へ4名を派遣した(2週間)。「第2期トビタテ! 留学JAPAN」の奨学金申請に1名(タイにて2か月間)の応募を支援した結果、審査をパスし申請が採択された。東京ドイツ文化センター主催のHallo Deutschland 2014コンテスト(ドイツ語プレゼン大会)で優勝した学生2名が、「ドイツ語親善大使」としてドイツ・ゲッティンゲンでの一週間のワークショップに参加した。また、日本の小学校に訪問して異文化理解講座も行った。	◎ 各学科とも2名の留学生の受入枠を設定するなど積極的な留学生の受入ができた。また本校学生の海外派遣についても各方面と連携をとりながら支援し、着実に成果が上がっている。
③ 外国人留学生に日本の歴史・文化・社会・自然に触れさせる研修旅行を年1回実施するとともに、東海地区留学生交流会に外国人学生を参加させる。《89》	10月18日、19日に外国人留学生5名が世界遺産富士山及び白糸の滝などを訪れ、日本の自然、信仰及び文化の研修を行った。12月20日～22日に東海地区留学生交流会(スキー研修)へ参加させる予定であったが、悪天候のため中止となった。このスキー研修のかわりに、2月21日に大井川鉄道でSL乗車を体験させるなどの研修を行った。	○ 計画どおり実施できた。
4 管理運営に関する事項	① 校長裁量経費の計画的重点配分を行う。《90》	5月27日の総務会議において、校長裁量経費を含む学内予算の配分を決定した。校長裁量経費については、特に教育・研究の発展に寄与する「教育プロジェクト経費」、「高等教育充実設備費」、「教員顕彰経費」、「学内ものづくり教育経費」は厳しい財政状況の中でも前年度水準又はそれ以上の配分を行った。

豊田高専/平成26年度年度計画	平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価	
②地区高専校長会議及び38年度校高専校長会議において、学校の管理運営について情報交換を行う。《91》	地区高専校長会議及び38年度校高専校長会議において、これからの高専の発展に向けて、各校の高度化再編など学校の管理運営について情報交換を行った。	○	計画どおり実施できた。
③機構「業務マニュアル」を活用するとともに、本校「業務マニュアル」の充実と活用を促進する。《92》	災害・緊急事態対応マニュアルを始めとする既存の各種マニュアルを更新したほか、高専機構本部が導入した「テレビ会議システム」の利用マニュアルを新たに作成し、デスクネットに掲載し、活用を促進した。	○	計画どおり実施できた。
④-1 機構が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。《93》	新たに本校に採用された教員には、マニュアルを配布するとともに、全教職員が確認できるようデスクネットにて掲載した。またセルフチェックリストを活用し、10月31日を期限とし、全教職員対象にセルフチェックを実施し、コンプライアンスの向上を行った。	○	計画どおり実施できた。
④-2 内部監査の強化及び外部監査におけるフォローアップを図る。《94》	内部監査では、外部監査での指摘を踏まえ、今年度から監査対象を本校が管理する経費を対象を上げ、機構本部の内部監査マニュアルに基づく証拠書類等の監査を行うとともに取引業者に対して売上帳(写)等の提出を求め、本校保管の会計伝票との突合も実施した。	○	計画どおり実施できた。
④-3 全教職員及び学生による防災訓練を引き続き実施し、災害発生時への現実的な対応を浸透させる。《95》	10月29日(当初予定していた10月22日が雨天のため)に全教職員及び学生を対象とした防災訓練を実施した。同訓練では、①緊急地震速報の放送が入った時の対処法、②火災現場を避けての避難等について、より現実を想定して実施した。	○	計画どおり実施できた。
⑤ 各種会議において、「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の周知を行う。《96》	7月2日の教員会議開催と併せ「公的研究費不正使用防止に関する研修会」を実施し、周知を図った。また7月3日の事務連絡会においても同研修会を実施して更なる周知を図った。さらに2月26日、3月3日、3月6日に全教職員対象に同研修会を実施し、併せて誓約書の徴収及び研修内容の理解度チェックを行った。	○	計画どおり実施できた。
⑥-1 事務職員や技術職員に能力の向上を目指した文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会に積極的に参加させる。《97》	事務職員・技術職員について、能力の向上を目指した文部科学省、国立高専機構、国立大学法人、人事院が主催する研修会に積極的に参加させた。 (実績) 文部科学省 2件、国立高専機構 15件、国立大学法人 6件 人事院 1件	○	計画どおり実施できた。
⑥-2 引き続き新任職員に対しては、年度早々に新任職員研修を行い、その他必要に応じて業務に関係する各種研修を行う。《98》	新任教職員に対して、平成26年4月10日に新任教職員研修を行った。	○	計画どおり実施できた。
⑦ 事務職員・技術職員について、高専間、国立大学法人、大学共同利用機関法人等との人事交流を引き続き積極的に推進する。《99》	事務職員については、近隣の機関(名古屋大学、岡崎統合事務センター)と人事交流を行っている。(実績)名古屋大学から7名、岡崎統合事務センターへ1名派遣。別途、近隣高専との人事交流の実現に向けて検討を行った。技術職員についても、積極的な人事交流等に向けて検討を行った。	○	計画どおり実施できた。
⑧ 教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修を計画的に実施する。《100》	高専機構情報企画係からの通知に基づき、マルチメディア情報教育センターが主体となって、国立情報学研究所(NII)で提供されているeラーニングシステム及びコンテンツを利用した情報セキュリティ研修(7~9月)を全教職員が受講した。	○	計画どおり実施できた。
II 業務運営の効率化に関する事項 ①-1 一般管理費については、光熱水料の一層の縮減を検討するとともに施設環境整備委員会における環境指針の策定による省エネの促進を図る。《101》	光熱水の使用状況を常に把握することにより、電気・ガスについては、空調温度設定の徹底を図り、さらに使用実態の調査として、各部屋の巡回を実施して、不適正な場合は、その改善を図った。また、水道については、元メーターの日々確認により、漏水の早期把握に努めた。これに加え、総務会議及び施設環境整備委員会で定期的に光熱水料の実績報告を行い、更なる省エネを啓蒙した。この結果電気使用量及び水道使用量は昨年度と比べ減少した。	○	計画どおり実施できた。
①-2 業務マニュアルの見直しにより、各係の業務内容を把握の上、整理を行い、人員の適正配置等を検討する。また、職員については、変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的活用を推進する。《102》	変形労働制の活用により、労働時間の効率的活用を推進した。また、超過勤務の多い職員については、総務課長から、所属長に改善を図るよう依頼した。その結果、超過勤務の多かった職員の超過勤務時間については、微減した。	○	概ね計画どおり実施できた。
②-1 平成21年度に機構本部から示された「一者応札・応募に係る改善方策について」に基づき、引き続き、契約手続きの改善を図る。《103》	仕様内容の策定に当たっては、より多くの業者が参加できるように努めた。また、これに加え、入札公告の期間を2週間程度は確保するように努めた。この結果すべての一般競争入札で2社以上の業者が応札した。	○	計画どおり実施できた。

豊田高専/平成26年度年度計画		平成26年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
Ⅲ 予算	①引き続き、外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業等)の獲得に積極的に取組み、自己収入の増加に努める。《104》	・科学研究費助成事業応募のためのガイダンスとして高専機構主催のテレビ会議システムを利用した講習会を教員に受講させた。(2日間:57名) ・受託研究・共同研究の受入を促進し、また、各種研究助成金の情報提供を行い、積極的な外部資金の獲得に努めた。 受託研究:0件、共同研究:15件、奨学寄附金:19件 ・テクノコンプレックスを中核機関とし、高度技術教育、教員研究及び地域の企業との共同研究を推進した。 「とよたイノベーションセンター」の事業の一つとして「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを実施した(専攻科生18名企業生9名が修了)。	○ 計画どおり実施できた。
Ⅳ 短期借入金の限度額	(該当無し)		
Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	(該当無し)		
Ⅵ 剰余金の使途	(該当無し)		
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画	栄生町内の職員宿舎の順次廃止及び宿舎跡地の利活用を検討するとともに、キャンパスマスタープランに基づいた整備計画を検討する。《105》	職員宿舎の代表を含めて、学内の教職員でキャンパスマスタープラン作成WGを作り、将来の学内施設及び設備に関する方針と計画を話し合い、1月に「キャンパスマスタープラン2014」を完成させた。その中で、栄生町内の職員宿舎は、6棟を除いて順次廃止していき、跡地には学生寮と駐車・駐輪場を設けることを決めた。	○ 計画どおり実施できた。
2 人事に関する計画 (1)方針	教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を積極的に行う。職員は、高専間、近隣の機関(名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、愛知教育大学、岡崎統合事務センター)と積極的に交流を進める。《106》	教員について、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を積極的に行った。平成26年度は、本校から豊橋技術科学大学へ1名、他高専・豊橋技術科学大学から各1名ずつ交流した。また、平成27年度は、本校から他高専へ1名、他高専・豊橋技術科学大学から各1名ずつ交流を予定している。 職員については、名古屋大学から7名の人事交流者の受入を行い、岡崎統合事務センターへは1名を派遣し、積極的な人事交流を行った。	○ 計画どおり実施できた。
(2)人員に関する計画	業務マニュアルの見直しにより、各係の業務内容を把握し整理の上、人員の適正配置等を検討する。変形労働制の活用により、労働時間の更なる効率的な活用を推進する。《107》	業務の効率化を念頭におき、各係で業務マニュアルの更新を行うとともに、6月には、人事評価記録書に基づいた職員評価に係る面談を行い共通の認識を確認した。後期については、これらの資料に基づき、長期的な展望に立った事務職員等の適正配置等を検討した。また、変形労働制を活用し、勤務時間の弾力的運用を行った。人事評価記録書に基づいた職員評価に係る面談を行い、業務について共通の認識を確認した。	○ 計画どおり実施できた。